



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成29年8月7日

上場会社名 ホッカンホールディングス株式会社
 コード番号 5902 URL <http://www.hokkanholdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 札
 (氏名) 工藤 常史
 (氏名) 山崎 節昌
 TEL 03-3213-5111

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	30,793	△9.5	2,186	△39.3	2,514	△37.5	1,896	△23.2
29年3月期第1四半期	34,025	8.0	3,601	107.7	4,024	106.6	2,467	134.7

(注)包括利益 30年3月期第1四半期 2,159百万円 (△14.4%) 29年3月期第1四半期 2,524百万円 (41.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	31.11	—
29年3月期第1四半期	36.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	130,278	52,998	39.5
29年3月期	127,134	51,068	38.9

(参考)自己資本 30年3月期第1四半期 51,399百万円 29年3月期 49,434百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	3.75	—	3.75	7.50
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	3.75	—	3.75	7.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	66,000	△0.5	4,800	△27.5	5,200	△30.7	3,100	△37.0	49.07
通期	123,500	1.2	5,500	△26.7	6,500	△25.6	4,000	△19.8	63.32

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	67,346,935 株	29年3月期	67,346,935 株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	6,394,404 株	29年3月期	6,393,424 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	60,953,266 株	29年3月期1Q	66,753,996 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が改善するなかで設備投資が緩やかに増加基調にあり、個人消費は雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅さを増すなど、景気は緩やかな回復を続ける状況となりました。

当第1四半期連結累計期間における清涼飲料業界の状況につきましては、春先の天候不順がありましたものの、ゴールデンウィーク以降の好天等により好調に推移しましたため、前年並みの結果となりました。カテゴリー別では、日本茶、野菜飲料等は前年を上回りましたが、ミネラルウォーター、コーヒー飲料、スポーツドリンク等は前年を下回る結果となりました。また、容器別では、缶製品は前年を下回る結果となり、ペットボトル製品は前年を上回る結果となりました。

食品缶詰業界の状況につきましては、水産缶詰は原料の高騰に伴う製品価格の値上げ等により前年を下回る結果となり、農産缶詰につきましても前年を下回る結果となりました。

[容器事業]

(メタル缶)

①飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、固形物入りの飲料に適した新形状の飲料缶が冬場のコーンスープ・おしるこに続き、コールド商品にも展開されるなど、積極的な営業活動を展開しているものの、主力の缶コーヒーが前年を若干下回りましたため、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、水産缶詰は原料不足に伴う原料価格高騰等により前年を下回る結果となり、農産缶詰につきましても前年を下回りましたため、食品缶詰用空缶全体では前年を下回る結果となりました。

②その他

エアゾール用空缶につきましては、燃料ボンベ缶の新規受注により、前年を上回る結果となりました。

美術缶につきましては、新製品の受注により販売が好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

(プラスチック容器)

①飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、お客様による内製化拡大の影響等により、前年を下回る結果となりました。また、無菌充填用プリフォーム（ボトル成形前の中間製品）は、春先の天候不順の影響により前年を下回る結果となりましたため、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体では、前年を下回る結果となりました。

②食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、贈答用商品の販売が減少したことなどにより、前年を下回る結果となりました。

③その他

一般成形品につきましては、化粧品用および食品用において販売が好調に推移し、また、バッグインボックスは販売が前年並みとなりましたため、一般成形品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は10,063百万円（前年同期比9.9%減）となり、営業利益は358百万円（前年同期比64.3%減）となりました。

[充填事業]

(缶製品)

缶製品につきましては、コーヒー飲料では、リシール缶（ボトル缶）は新ラインの稼働により前年を上回る販売となりましたものの、通常缶は販売が減少したため、缶製品全体の売上高は前年を下回る結果となりました。

(ペットボトル製品)

ペットボトル製品につきましては、アセプティック（無菌充填）を含む大型ペットボトルは、ミネラルウォーターの受注減少の影響等により前年を下回る結果となりました。また、アセプティック（無菌充填）を含む小型ペットボトルにつきましては、一部生産ラインのリニューアルによる工事のため生産が減少したことなどにより、前年を下回る結果となりましたため、ペットボトル製品全体の売上高は前年を下回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は18,991百万円（前年同期比9.0%減）となり、営業利益は2,165百万円（前年同期比24.5%減）となりました。

[機械製作事業]

機械製作事業につきましては、自動車部品生産設備等の受注がありましたが、大型案件の受注が減少した影響等により、機械製作事業全体の売上高は481百万円（前年同期比26.4%減）となり、営業損失は18百万円（前年同期は営業損失15百万円）となりました。

[その他]

インドネシアにおいて、容器（ペットボトル）製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT. HOKKAN INDONESIA（ホッカカン・インドネシア）は、一部のお客様による内製化の影響等により前年を下回る販売となりました。また、ベトナムにおいて、清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK(VIETNAM) CO., LTD.（日本キャンパック・ベトナム）は、同国の天候不順の影響等により前年を下回る販売となりました。

化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスは、お客様の新製品受注や新たなお客様との取引開始により、前年を上回る販売となりました。

以上の結果、工場内の運搬作業等をおこなっております株式会社ワーク・サービスを加えたその他全体の売上高は1,258百万円（前年同期比5.3%減）となり、営業損失は73百万円（前年同期は営業損失30百万円）となりました。

以上により、当第1四半期連結累計期間における売上高は30,793百万円（前年同期比9.5%減）、営業利益は2,186百万円（前年同期比39.3%減）、経常利益は2,514百万円（前年同期比37.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,896百万円（前年同期比23.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は130,278百万円(前連結会計年度末は127,134百万円)となり3,144百万円の増加となりました。これは有形固定資産が減少(61,431百万円から60,734百万円へ696百万円の減)したものの、第1四半期は販売数量が増加する時期であるため、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権が増加(26,473百万円から29,438百万円へ2,964百万円の増)したほか、投資有価証券の増加(21,448百万円から21,995百万円へ547百万円の増)および商品及び製品が増加(3,815百万円から4,102百万円へ287百万円の増)したことが主な要因であります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は77,279百万円(前連結会計年度末は76,065百万円)となり1,213百万円の増加となりました。これは未払法人税等が減少(1,990百万円から585百万円へ1,404百万円の減)したものの、借入金が増加(41,337百万円から44,331百万円へ2,993百万円の増)したことが主な要因であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は52,998百万円(前連結会計年度末は51,068百万円)となり1,930百万円の増加となりました。これは配当金の支払228百万円がありましたものの、親会社株主に帰属する四半期純利益1,896百万円の計上およびその他有価証券評価差額金が増加(5,679百万円から5,959百万円へ280百万円の増)したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成29年5月11日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,325	2,045
受取手形及び売掛金	23,634	25,326
電子記録債権	2,838	4,111
商品及び製品	3,815	4,102
仕掛品	2,295	2,391
原材料及び貯蔵品	2,600	2,721
繰延税金資産	656	436
その他	2,643	2,583
貸倒引当金	△29	△27
流動資産合計	40,781	43,692
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,613	22,245
機械装置及び運搬具（純額）	18,924	18,496
土地	15,903	15,887
リース資産（純額）	2,855	2,717
建設仮勘定	584	876
その他（純額）	549	509
有形固定資産合計	61,431	60,734
無形固定資産	983	937
投資その他の資産		
投資有価証券	21,448	21,995
長期貸付金	183	674
繰延税金資産	9	32
退職給付に係る資産	436	391
その他	2,043	2,003
貸倒引当金	△183	△182
投資その他の資産合計	23,937	24,914
固定資産合計	86,352	86,586
資産合計	127,134	130,278

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,766	18,395
短期借入金	14,568	18,841
リース債務	444	407
未払法人税等	1,990	585
賞与引当金	898	381
その他	7,193	6,825
流動負債合計	42,861	45,437
固定負債		
長期借入金	26,768	25,489
リース債務	1,221	1,148
繰延税金負債	1,233	1,276
退職給付に係る負債	3,067	3,035
その他	913	892
固定負債合計	33,204	31,842
負債合計	76,065	77,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	11,070	11,070
利益剰余金	24,352	26,020
自己株式	△1,954	△1,954
株主資本合計	44,555	46,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,679	5,959
繰延ヘッジ損益	11	11
為替換算調整勘定	67	28
退職給付に係る調整累計額	△878	△821
その他の包括利益累計額合計	4,879	5,176
非支配株主持分	1,633	1,599
純資産合計	51,068	52,998
負債純資産合計	127,134	130,278

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	34,025	30,793
売上原価	26,978	25,218
売上総利益	7,046	5,575
販売費及び一般管理費	3,445	3,388
営業利益	3,601	2,186
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	108	92
持分法による投資利益	338	192
受取賃貸料	30	30
その他	65	141
営業外収益合計	549	463
営業外費用		
支払利息	89	68
弔慰金	-	30
その他	36	36
営業外費用合計	126	135
経常利益	4,024	2,514
特別利益		
固定資産売却益	-	5
資産除去債務戻入益	-	96
特別利益合計	-	102
特別損失		
固定資産除却損	19	88
投資有価証券評価損	-	43
経営統合関連費用	69	4
その他	-	4
特別損失合計	89	141
税金等調整前四半期純利益	3,935	2,475
法人税、住民税及び事業税	878	505
法人税等調整額	278	93
法人税等合計	1,156	598
四半期純利益	2,778	1,876
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	310	△19
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,467	1,896

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	2,778	1,876
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	182	273
繰延ヘッジ損益	△1	5
為替換算調整勘定	△531	△54
退職給付に係る調整額	55	55
持分法適用会社に対する持分相当額	39	3
その他の包括利益合計	△254	283
四半期包括利益	2,524	2,159
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,354	2,193
非支配株主に係る四半期包括利益	170	△33

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,162	20,880	653	32,697	1,328	34,025	—	34,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,525	—	242	1,767	390	2,158	△2,158	—
計	12,687	20,880	896	34,465	1,718	36,184	△2,158	34,025
セグメント利益又は損失(△)	1,006	2,868	△15	3,858	△30	3,828	△227	3,601

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△227百万円には、セグメント間取引消去63百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△290百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,063	18,991	481	29,535	1,258	30,793	—	30,793
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,353	—	313	1,666	392	2,059	△2,059	—
計	11,416	18,991	794	31,202	1,651	32,853	△2,059	30,793
セグメント利益又は損失(△)	358	2,165	△18	2,506	△73	2,432	△246	2,186

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△246百万円には、セグメント間取引消去64百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△311百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。